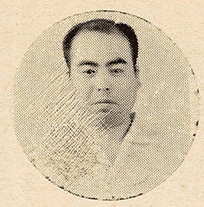
上田千曲高校
同窓会報

発行所
長野県上田市中之条626
上田千曲高等学校同窓会
TEL②7070 〒386
代表 中野隆雄
印刷所 秀信社

同窓会活動を活発に!!
＜会長に就任して＞

中野隆雄



新緑の折柄、同窓生諸氏には益益ご健勝にご活躍のこととお慶び申上げます。さてこの度は皆様のご推挙を賜り栄誉ある同窓会会長に就任致しましたが何分にも浅学非才の身であり、又私の性格上との種の任に就くことは誠に苦手であります。しかし一旦お引受け致しました以上はそのような身勝手なことを云っておれませんので私の出来得ます範囲内で皆様の意に添うよう誠心誠意任に当り私の任期を全うする覚悟でありますのでよろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

時恰も激動の年と表現される七十年代に入り経済の高度成長に伴う政治、社会情勢の緊張、不安を増し、それと表裏をなして消費経済の助長による昭和元禄の出現と全く矛盾に満ちた現代でありますこうした情況下にあって我々はどのように対処すべきか、それは各各によって異るかもしれませんが我が母校の名が示す通り千曲の清流の如く何物をも見徹す澄み切った烱眼をもって本来を見極め本道をはづれることなく各分野にて尚一層の活躍を念じて止みません。

「初心忘るべからず。」という言葉があります。この言葉は極くありふれた、常識的な言葉でありますが、これには非常に含蓄があり私の好きな言葉の一つであります。人間誰しも事をはじめようとする時には必ずある種の決意があり、覚悟があり「よしやろう」という何か身内を走る云い知れぬ緊張感があるものです。それがある程度の時が流れ、そこに慣れが生じるようになりますと初心を忘れ奢りが出たり、惰性が生れるものであります。そのような時に初心を思いかえし我が身を律し、新鮮な気持、態度で事に当る心のゆとりを持ちたいものと常々反省すると共に愚考する次第であります。

扨て今年の同窓会の記念事業につきましてこの紙上をおかりして一寸触れさせて頂きます。各位にはご承知の通り同窓会名簿は十年に一度発刊することになっておりますが、今年は丁度その発刊年にあたり目下同窓生諸氏並に諸先生方のご協力の下に膨大な資料を集め編纂を急いでおります。あらゆる分野でご活躍されている全ての同窓生を一冊に網羅したこの同窓会名簿は、消息の判らなかった旧友との再会に、又諸氏の今後の交友にきっと役立つと確信致しておりますので、座右として一冊お求め下さいますよう、大変勝手ではありますが御願い申上げます。

おわりに同窓生諸氏のご健康とご多幸を祈念申し上げ会長としてのご挨拶にかえさせて頂きます。

＜お知らせ＞
同窓会名簿
6月下旬発刊
代金　送料とも 600円

同窓会報創刊号に寄せて

定時制主事　小布施徳治

同窓会報創刊をお祝いいたします。

同窓の諸兄が各界に活躍されている状況を見、又聞き、上田千曲高校の力強い年輪を感じています。

本校の卒業生は、真面目で、真摯であるとの世評に答える資質は何によって培われてきたのか、世任間もない私には、その深因を計り知ることもできませんが、その一因として、古代より信州の文化地区として繁栄してきた上小の祖先の血脈がその資質になっていると思います。又千曲河畔の素朴な風物が、四季の変化をこの学舎に与え、三年、四年の学園生活において、人生の美しさ、楽しさ、その意義を教えて来たものと思います。

私が千曲高等学校の前身である上田工業学校にはじめて勤めたのは、終戦後まもない、昭和二十年十月でした。校舎の瓦は剥がれ、廊下はとがされていて、大変に荒れた校舎でした。授業にでて、さらに驚いたことには、机も椅子もなく、座学のクラスもあって、これで授業ができるものかと思い、甚だ心細いかぎりでした。戦争が終って、兵役にいた、先生や生徒が毎日のように帰ってきました。

昭和二十一年四月に校名が上田商工学校と変更され、商業科と工業科が設置されました。商業科には特別教室はなく、工業科には工場はなく、雨天体操場が工場にあてられたが、実習機械や工具類は殆んどありませんでした。

昭和二十二年に建築科の実習工場が新築されましたが、建物が出来たのみで、設備等は皆無でした。その頃学制改革が行なわれ、新制中学校が新設されることになり、旧制中学校は、高等学校になることになりました。この学制改革に対処するため、上田市は新学制準備協議会を結成し、その委員に、市側から教育担当職員、市会議員代表者数名、市民の代表者数名、学校側から、小学校長六名、中学校長三名、高等学校から、女学校長と商工学校から私が委員になり二か年間にわたり、数十回の会議を行い研究討議を重ねました。最初に基本方針として、小学校を六校、中学校を三校、高等学校は、女学校と商工学校を合併して、一校設立することが一応決定しました。決定はしたものの、財政負担と建築資材の不足を考えたとき、これを実施することは、容易なことではありませんでした。このうち中学校は義務教育でありますから、どんな困難があっても、三つの校舎を新築しなければならない。これとて財政面から考えて、直ちに新築することができないので、とりあえず、一中は北小学校の一部を利用し、二中は中央小学校（現清明小学校）の一部を利用し、三中はしばらく南小学校の一部を利用し、将来は商工学校が他に移転したとき、そのあとに移ることにしました。女学校は当時中央小学校のなかにありました。そのところへさらに二中をおくことになったので、一刻も早く移転しなければならなくなりました。一方、商工学校も早急に移転しなければ一中が困るという状況にありました。

そのように、義務教育の中学校の校舎さえ新築ができないで、一時しのぎに、小学校の一部を利用することにした。これとてやがて早急に三つの中学校の校舎を新築しなければならない、その上に女学校と商工学校を合併した、高等学校の校舎を同時に新築するためには、膨大な予算を必要とします。その結果、三つの中学校と高等学校とを新設することは、到底市では財政負担ができないではないかという考えが、研究結果として考えられてきました。これは当然高等学校の設立を困難とする考えであります。高等学校の代表であり、その設立に身命をかけていた、女学校の故一志校長先生や私共の苦悩は、極めて深刻なものでした。しかしながら、教育は百年の計であることに思いをいたし、それこそ全力をつくして、高等学校の必要性を、あらゆる角度から強調し力説しました。その熱意と必要性は、かなり他の委員を動かし、認められました。殊に委員長は、私どもに好意と熱意をもってくれました。最終会議に、委員長が勇頭に発言され、市が或程度の校舎を新築するならば、県立移管が可能である。県立移管になれば、その後の学校の経営は県の負担になるから、高等学校を設立して、県移管する方針はどうかと提案された。市の負担が、校舎の建築費のみで、高等学校が設立されるものならば、どんなに苦労しても設立すべきであると、大勢が好転して全員がこれに賛成されました。同時に場所を旧熊谷飛行学校跡（現千曲高等学校）に設置することも決定されました。殊に委員長は、私にとっては終生忘れられないことです。

この決定を見るや、昭和二十二年に、おいたてられるように、まず、女学校が移転を開始しました移転先には、兵舎と、大、中、小の格納庫が主なるものでありました。商工学校のあとに一中が移ってくることになっていたので、これも早く移転するように矢の催促でした。商工学校としては、移転先の兵舎と格納庫では、授業ができないし、移転後に教室の新築を要求しても、容易に実施されそうにない状況下にあることを考えて教室と講堂を新築し、それが完成すれば、直ちに移転する意向を伝えました。市はこれを無理からぬ要求と考え約一九〇〇平方メートルの大格納庫の改築に着手した。改築は中央を講堂とし、周囲を教室として、その完成を見たので、昭和二十三年に移転しました。改築した、講堂も教室も誠に御粗末極まるものでした。よくもあれで教育ができたものと、顧みて感慨無量です。当時は、生徒も先生も大いに喜びました。

昭和二十四年四月に県移管が決定しました。

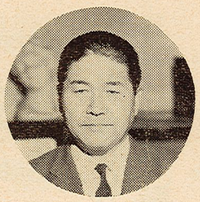
昭和二十六年に四教室（三十番台）が新築され、やっとの思いで改築された格納庫が、この年に大雪のため、不幸にも崩壊寸前となり、これにかわる教室が、翌昭和二十七年に十教室（十番台、二十番台）と理科室が新築されて、ようやくにして、千曲高等学校の今日の基礎ができ、安定してきました。その間の市、父兄、先生、生徒の苦労は大変なもので、言葉にあらわしえない程のものでした。その後順次に体育館、図書館等が改築され、整備されました。この間の関係者の協力と殊に父兄、先生、生徒と学校が一丸となって、学校発展のため尽した苦労の体験は貴重なものと思います。

昭和二十八年に、国会で産業教育振興法が成立し、これによって国と県の財政をもって、家庭科、商業科、工業科の特別教室と工場が新築され整備され、今日のようになりました。おそらく近い将来には、校舎の全面改築が行なわれ雄大な近代的の校舎が建てられることと思います。校地は広く、その建物が完成すれば、それこそ県下に誇りうる学校となることでしょう。

学校の発展とともに、卒業生もまたこれに応えるように、各地で各分野に目り活躍されており、重要な地位についた人、成功された人が多数おります。この時にあたり、本年五月には同窓会名簿の発刊、同窓会新聞も創刊されることをお聞きしました。同窓会も愈々充実さらに一大飛躍されることが期待されます。私は心の底から喝采を叫び、喜んでいます。どうぞ自重自愛され、益々発展されることを祈っています。

飛躍への期待

学校長　岩下美千穂



上田実科高等女学校という名は私にとって懐しい名であります。明るくのびゝしてスポーツが強く実技のよく出来る学校、私もよく知っている信州教育界で鉾々たる校長の居られた学校、私の父も設立の一翼を担った学校ということで親近感も一しおであります。

上田市東部の一角に白亜の偉容を誇った市立商工学校。一昨年大原簿記学校同窓会が設立されて以来いつも総会にお招きを頂き同校との関係を聞いたのですが、建物も殆どそのまま商工学校へ受けつがれたとのことです。現に同校の校旗も本校に保管してあります。

上田千曲高等学校同窓会報創刊号に寄せて

定時制主事　小布施徳治

職員異動

昭和四十五年度

定時制の統合、産学協同の問題が、種々論議され、又検討されてきています。やがて当校においても、その範疇から逃れることのできない時期が来るものと思いますが、将来いや現在でも、上田の工場群は、その敷地を何処に求めてくるか、当校周辺から塩田地区に集結されてきます。その時工業科をもつ当校定時制課程の存在の意義が大きくなるものと思います。その形態は何うであろうとも、そのときにこそ、本校定時制課程の創立の意義を失ってはなりません諸兄の指導と協力を期待いたします。

同窓生諸兄の今後の繁栄と活躍を祈ってやみません。

御転任

社会科　黒柳政幸先生
本校在職期間　十五年
松代高等学校教頭として

養護　宮沢登志子先生
本校在職期間　十四年間
上田高等学校へ

国語科　佐竹驛夫先生
本校在職期間　十一年間
松代高等学校へ

商業科　石坂信也先生
本校在職期間　七年間
須坂商業高等学校へ

御退職

教頭　竹内敬太郎先生
本校在職期間　二年八ヶ月

御新任

教頭　花岡　久先生
坂城高等学校教頭より

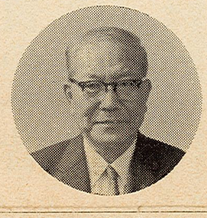
社会科　御子柴国武先生
望月高等学校より

商業科　早川宗男先生
軽井沢高等学校より

事務室　竹内和雄先生
上田東高等学校より

上田千曲高等学校の歩み

前校長　池田正三



同窓会役員

名誉会長　岩下美千穂
会長　中野隆雄
副会長　田中重信（男）
　　石川則子（女）
理事　青柳行則、荒井久子、一之瀬鉄男、今井静子、海川清子、上羽貞子、金井勝、鍵田昭三、栗内公人、小林郁夫、小林かね子、小林小芳、酒井益子、桜井登茂美、佐藤次雄、島川峯子、竹内七郎、出口寸主孝、中村万亀男、成沢秀敏、西沢静枝、長谷川芳子、花岡和義、松沢良三、丸山照子、宮沢幸子、宮原一夫、依田昭子、
校内係職員　丸山登一郎（主任）、内山道弘、大川秀一、久保敏小泉好武、清水洸、春原浩一、高橋弘、林明男

題字は岡川桂城先生

昭和四十五年度
同窓会総会は左記によって開催されます。
一、日時　九月十三日(日)
　　午前十時
一、会場　本校会議室

交流

同窓会の多角的な活動を期待

水沢長康

始業ベルの合図で一斉に機械が運転され、毎分一、二〇〇回転の速さで「巻たばこ」が製造されていく。一日当り約三千万本、年間約八億本のピースとハイライトが製造されて関東以北の憂煙家の皆さんの手元にとどけられている。忙しい仕事の中で憩の一服として紫煙を立ちのぼらせていると思うと仕事にも一段と力が入るというものである。

これが我々の職場、つまり日本専売公社上田工場の毎日である。昭和二十三年に当時の鐘淵紡績から大蔵省が買収し、翌年の一月にたばこ工場として発足以来二十年あまり、今日ではこの地方でも有数の企業に発展してきたのである。従業員は約七〇〇人、その内、女性が約六十パーセントを占めているがまさに女性上位の職場と言うことができるでしょう。

通勤範囲は大半が市内または上田近郷からであり、学校も近辺の高校、中学の卒業生が多いのは当然である。その中に男女一〇〇人程の千曲高校同窓生が元気に働いているといえば驚く人もあろう。女性の大部分の人は第一線の製造現場にあって、しかも二児、三児の母親として立派に家庭と両立させている人が多い。男性は主として事務関係か、技術畑で活躍しているわけであるがそれぞれ重要な職責にある人が多い。また反面、インホームマルグループとしても「千曲会」という名前で三か月に一回程度は集って酒を汲み交しながら社会を論じ、職場を語り、そして学生生活を語り合っていることをお伝えしておきたい。

とにかく肩を張りがちな職場にあっても同窓生と聞けば特殊な親近感をもって接することができて楽しいものである。

それにつけても思うことは野球部の寄付金だけのつながりでなく同窓会の多角的な活動を期待して止まない次第である。

（二十三年機械科卒）

現住所・勤務先の変更や改姓等異動の際は
（〒386）
上田市中之条626
上田千曲高等学校
同窓会係宛
必ず御連絡願います。

私の職場

二宮康子

私が上田信用金庫に勤め始めてまる四年になろうとしています、現在川原柳支店におります。せまい建物で人数も十四名と少ないのですが小さくまとまった楽しい職場です。

私は金庫へ入りいろいろな事を学びました。学生時代、ある先生が学生の時はいいかげんな事をしていてもよいが社会へ出ると常に百点の事が要求されると言われた事がありました。職場ではミスは絶対に許されません。私はどちらかと言うとめんどうな事はきらいで事を合理的に考える方なので失敗もありましたが、そのたびに先生が言われた事を想い出し二度と同じ失敗は繰り返すまいと心に誓ったものでした。

私たちは毎朝、朝礼をしています。一か月に一度当番がまわってきまして、その日には必ず、日頃自分が感じている事、本や新聞を読んだ感想等、五分間位話すので す。人前で上手に話す事はたいへんです。二、三日前から話す事を考え努力していますが、きっと自分のためにプラスになると信じています。

よく「働く女性は職場の花」と言われます。「私は男性と同じお給料をもらい、同じ位仕事をしています。」と言う人がいるかも知れません。でも、男性には男性の女性には女性にしかできない仕事があるはずです。

私が入った時は毎日お茶くみ。お茶がしぶいのぬるいのと文句を言われるたびに明日こそは美味しいお茶を入れようと努力しました「私はお茶くみにきたのではありません。事務をとりにきたのです」と言う人がいるそうです。お茶くみは新入女子職員の仕事、男性がお茶くみをしている姿を想像してごらんなさい。みじめで気の毒な気がいたします。女性は職場のやさしい花。男性のつかれきった心をやわらげてあげる、やさしい花。

私はそう信じています。

（四十一年　商業科卒）

心を大切に

宮尾輝夫

古代から今日まで異様な進歩発展を遂げ今日に至っている。日進月歩文明社会は急速な迄に発展開花してきたがしかし一向に変らないものがある。それは人間の心、人の心ではあるまいか。文明社会は築けたが我々自身の心は近代社会に合せて育てる事が出来なかったと言っても過言ではあるまい。それだけに心を育てることはむずかしい事だ。

人類の長い歴史の歩みは戦の中にあったとみてよい。またこの世は争いの世の中だと言われるがそもそもこの世の中、あくまでも人間が主体でありこの世の中に生れた人はすべて人間なのだ。そしてすべての人間は「心」が中心である。この心でお互い真に豊かで幸福な生活を実現するために役立ってこそ人間が人間として存在意義があり価値があるのだ。

しかし現実はどうだろう。人を落してまでも自分が上になろうと人を恨み、人間同士を傷つけ合いその人間を粗末にする。

私はこうした現実の姿をみるにつけてますますこの気持を強くするのです。

いかにしたら心を育てる事が出来るのか。良い事も悪い事もみな心の持ち方にある訳です。心は人から与えられるものでもなければお金で買えるものでもありません自からが心に糧を与え教養に光を保つことが必要なのである。人間として生れ生活を営むには和を以って人と接する。これこそ世の中が丸くなり人々の心も丸くなるのではなかろうか。

人間を幸せにするその救いの相手は神ではなくすべて人間の心からであるから。

そんな事をいつも思っています

（四十年定時制第一回卒）

高校生気質の今昔

清水洸

十年一昔と申しますが、私が本校前身の女学校に赴任したのは、支那事変の真最中で、夏休みに学校で兵隊のシャツやズボンを縫う、勤労奉仕をしていた昭和十五年で、当時の学校は今の、清明小学校北側校舎の処にあって、高等小学校の併設校であった。

あれから三十年、すべてが変りましたが、

(1)日本は敗戦により大きく変った殊に自由思想と民主主義の普及徹底したこと。

(2)私自身の心身が変った。考え方も変った。

(3)変らないのは生徒諸君の年令である。

こうした中で、生徒気質の今昔を比較することは到底不可能なので、此処には只私の思い出るまゝを書いてみたい。

一、就任当時の生徒

「質実剛健にして勤労を尊び…」の実践者といった感じで、恐しい程まじめでよく働いた。

イ、教員検定試験

補習科卒業生は、ほとんど小学校専科教員検定試験に合格し、教職に就く者が多かったが、その為には、すい分勉強したものである

ロ、学校行事

当時は生徒数も少なく、行事は学年又は全校が対象で、登山、強歩、スキー等が行なわれ、すい分歩いたが、落伍者もなくがんばった。

卒業式には、皆泣いてしまった卒業生がいつまでも別れを惜んで帰らないで困った。私も若かったので、乙女の感傷に心から同情したものである。今はこうした風景は全く見られなくなったのは、ほとんどの卒業生は就職し、新しい集団生活に入るので、希望にもえている為であろう。

二、勤労動員、敗戦以降

今更そんなたいことをといわれても、私は軍需生産に食糧増産に骨身をけする思いで働いた当時の生徒諸君を忘れることができません。私共は学校を出ても何も出来なかったが、今の人は勉強も運動も出来るし、本も読めて本当にうらやましい。出来ればもう一度、生徒になりたいと語った私はあの当時の生徒に、すまないと思う。敗戦で全国民が混乱と無気力の中で、学校は続けられたが、学校の運命や校舎問題等で、職員も生徒も共に悩み、その解決のためには喜んで労力奉仕をしてくれた。このことの善悪は別として、その成果は校内の到る処に見られ、成長した樹木に、通路の石一つにも、先輩の汗がにじんでいるこうした中にあって生徒は地味な勉強を続けたことが、今日の母校の名声の伝統を築き上げる原動力となったものと思います。

三、同窓生との対話、先輩の動向

学校の評価は卒業生の社会的活躍の現状を以て、することができると思います。

このことを明らかにし、お互に理解を深めるものが、今回の名簿である。特に私共のようにたくさんの人々の生徒時代を知っていると、現在の動静は、時間をへだてた、卒業生とのなつかしい対話である。私は心から、皆様の御健康と御多幸を祈りつつ、ペンをおきたい。

カリフォルニアで

永井憲三

上田千曲高校のみなさん！

日本のみなさんお元気ですか。ぼくは今アメリカに留学して、International Businessの勉強をしています。

期待と不安を胸に五色のテープとドラの音の中をみんなに見送られて横浜港を静かにすべり出したのは六月二日でした。

以前からアメリカ上陸を夢みていたぼくだが、それだけの力と勇気に欠けていたのでした。

しかし今はここでいろいろなことを学んでいます。こうしてアメリカで生活していると、ぼくが今まで気づかずにいた日本のいろいろな点がまるで透明なガラスでも通して見ているようによく見える今までぼくは日本人の感覚で日本で学んだ限られた知識で、日本という小さな国から見て考えたり、想像したりしていた。しかしこのような今までの考え方がすべてないことに気がついた。とにかく吸収することの多さに驚いておりアメリカへ留学することができてほんとうによかったと思っています。

しかし、ぼく達日本人が日本で学問することさえ容易なことではない。ましてやぼく達にとって言語や環境が全く異った国で学問することが容易であるはずがありません。とくに時間と競争がすべてを支配しているアメリカにおいてはなおさらのことです。異った文化や言語ばかりでなく、日常の生活様式さえもが、ぼく達の前に障害として立ちはだかるのです。

しかし、豊かな幅の広い国際的な教養と感覚を身につけその上、将来のかけがえのない喜びや報酬をも得るために、ぼくはこれらの困難を克服しなければならないのです。ぼくは自分の将来の向上発展を望む。だから自国のみに自分自身を閉じ込めておいて安住してはいられなかったのです。

現在、われわれ青年が一国のみに閉じ込り、限られた範囲の知識に甘んじていることは許されないのではないだろうか。われわれ若者は、複雑な現在の世の中が要求していることを素早く感知し、これを身に付けなくてはならないのです。

おさえられないほどの興奮と希望を胸に日本とは対照的な広々とした、カルフォルニアの夕日を浴びながらアメリカの土を踏んだ。

ぼくが長い間夢にみていたアメリカ。

アメリカは所得も多いというが物価も確かに高い。食事が一食最低二ドルはかかる、その上チップなども必要である。また店で何を買っても値段の約六%の税金がその場でとられる。バス、タクシーもひじょうに高い。おそらく物価や税金は日本の二―四倍でしょうアメリカで生活すると一日平均十ドルは必要です。

この国は週五日制で土・日曜日は学校、会社はもちろん、ほとんどの店が休みです。

アメリカは飛行機と車の国ですこの国で車のないのは足のないのと同じことです。ガソリンが安い（一ℓ―約26円）のも一つの理由でしょう。

夜もふけてきましたが、地球の裏側の日本は今ごろ太陽の輝りつける昼でしょう。こうして机に向って筆を持っていると日本での、いや千曲高校の機械科で学んだころのことが、つぎつぎとぼくの脳裏をかけめぐって絶えません。

（四十二年機械科卒）

進路状況

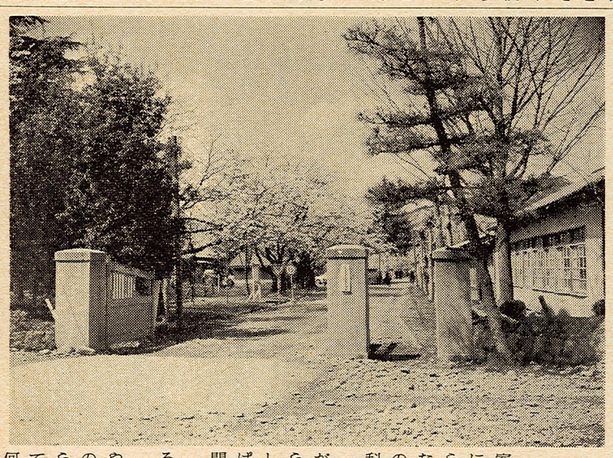
職業指導主事　塩入富雄

私が昭和二十八年四月にこの学校へ赴任してから丁度十七年になる。当時は各企業とも求人を手びかえていたので、就職することはなかなか難しいことだった学校に照会のあるものはごくわずかで毎年先生方は、他府県へ出張して早朝から夜おそくまで就職口を探し歩いたものだ。ある会社では、居留守をつかってことわったり、二時間近く待たされたあげくことわられたり、本当に辛い思いをしたこともあった。大企業のなかには、会社へ顔を出さない学校へは求人をくれないところもあった一番困ったのは上田千曲高校という名だ。どこへ行っても実業高校だという内容をいちいち説明しなければわかってもらえないのには閉口した。指定校の枠を取るのに三年かかったところもある。そんな状態だったので、大企業へ就職する生徒も少なく、就職戦線は峻烈を極めた。いまにして思えば、全く嘘のような話である。三十七、八年頃から求人件数も漸増、四十二年を契機として急激な上昇を示している。今年度（四十四年度）の求人申込み会社の総数は約二千件を数えるに至った。聞くところによれば、各企業の充員計画に達しているところはよいほうで、ほとんどの企業は深刻な労働力不足を訴えているのが現状であり、こと当分の間は就職難の心配はなさそうである。

ちなみに、本年度卒業生（四十五年三月卒）の進路状況は一覧表の通りである。

44年度　卒業生進路状況（全日制）

区分＼科	卒業数	進学	家業	就職	就職者の内訳 県内 上小	県内 他	県外 東京	神奈川	埼玉	茨城	栃木	岐阜	愛知	大阪
建築	39	10	1	28	4	4	19							1
機械	75	21	2	52	16	18	7	3	1		1		3	3
電気	67	11	1	55	12	18	17	3		1			1	3
商業（男）	7	2		5	1		4							
商業（女）	81	10	3	68	53	9	4	1					1	
家政	118	23	2	93	67	10	13		2			1		
計	387	77	9	301	153	59	64	7	3	1	1	1	5	7



登・下校

校門を入ると右側が家庭科の教室である。と思ったら聞くところによると家政科と商業科、それから家政科の研究室があるとのことなるほど多勢の女生徒の間に数人の男子がいる。このクラスは商業科なのかも知れない。

ところで今日は久しぶりに用事があり、恩師を訪ねて見た。門から本館に至るまでの桜の並木に、しばし見とれる。せわしさでいっぱいだった胸の中にさわやかな空間が快くひろがる。

本館の前を過ぎて瓢簞池のところで公社のおじさんを発見した。

うれしかった。変っていない。やわらかな木々の芽から、桜の花の下から、辺りの教室の窓の中から若く健やかな雰囲気があふれ出てくる。薄暗い教室とは反対に、何と明るいことだろう。

スポーツ

—母校の活躍ぶり—

【昭和四十四年度】

◆バスケット◆

国体東信予選
（男子）一回戦
千曲93—39蓼科
二回戦
千曲36—92上田
（女子）一回戦
千曲66—41佐久
二回戦
千曲36—37東部

◆陸上◆

国体東信予選
（男子）
四○○M
堀内潤一郎　53秒9　1位
円盤投げ
原　雅典　31m68　3位
ヤリ投げ
黒岩　幸男　46m6　3位
一六○○MR
（土橋・佐藤・宮下・堀内）
3分42秒2　3位
（女子）
走巾跳
涼　純江　5m25　1位
一○○MH
涼　純江　16秒4　1位
八○○M
居鶴富士居　2分34秒62位
四○○M
居鶴富士居　67秒6　3位
四○○MR　53秒2　1位
（中村・水野　栗原・涼）

国体県大会
一六○○M
（土橋・宮下・北住・堀内）
3分39秒2　3位
一○○MH
涼　純江　15秒4　1位
四○○MR
（中村・水野・栗原・涼）
52秒3　2位

◆バレー◆

国体東信予選
（男子）
千曲2—0野沢北
千曲2—0丸子
千曲0—2小商
（女子）
千曲0—2丸子

◆野球◆

東信地区予選
千曲001002130　7
臼田340001101×　9

◆ソフト◆

国体東信予選
千曲4—0丸子
千曲6—0小諸
国体県大会
千曲7—2大町北
千曲6—3塚原天竜
千曲0—3塚原

◆サッカー◆

国体東信予選
千曲4—1蓼科
千曲1—3上田

◆剣道◆

国体東信予選
千曲3—2岩村田
千曲1—4野沢北
千曲2—3上田

◆庭球◆

国体東信予選
（男子）
三回戦
近藤・清水2—4岩村田
二回戦
春原・中村2—4北佐久農
平林・竹内2—4蓼科
（女子）
1位
塩崎・久保田4—3野沢北
二回戦
山崎・佐藤2—4野沢北
清水・西沢2—4蓼科
国体県予選（女子）
三回戦
塩崎・久保田3—4篠ノ井

◆卓球◆

（男子）
一之瀬—不戦勝
柳沢0—2野沢北
堀内1—2岩村田
岩下1—2北佐久農
（女子）
田中0—2蓼科
栗林1—2丸子
柳沢0—2域南
春日2—0小諸
二回戦　春日2—1蓼科
三回戦　春日2—0東部
四回戦　春日0—2野沢南

国体県大会（女子）
一回戦　春日0—2蘇南

◆水泳◆

県高校総合選手権（松本）
二○○M平泳　大森恵美子
3分10秒2　大会新　1位
二○○M背泳　池田　一子
3分22秒4　1位
県総合体育大会兼国体予選
一○○M背泳　池田（長野）
1分30秒1　大会新　2位
日本高等学校選手権大会（前橋）
一○○M平泳　大森恵美子
9位
第24回国体（長崎県・佐世保）
一○○M平泳　大森恵美子　8位

【新人戦】

◆陸上◆

上小陸上競技大会
（男子）
四○○M　宮下　55秒3　1位
ヤリ投げ　横島　37m78
競歩　上野　18分33秒5
円盤投げ　原　30m86　2位
一六○○MR3分48秒7　1位
（女子）
一○○M　中村　14秒1　2位
二○○M　涼　27秒7　1位
一○○MH　涼　17秒0　1位
中村18秒5　2位
八○○M　居鶴2分34秒8　1位
四○○MR　3位
田中・涼・栗原・中村　1位
塚田・清水・中曽根・居鶴

ヤリ投げ　清水　37m30　1位
砲丸投げ　栗原　9m38　3位
円盤投げ　栗原　30m30　1位
走巾跳　涼　5m22　1位
中村　4m66　3位
走高跳　涼　1m35　1位

◆野球◆

秋季北信越大会地区予選
第一戦　千曲4—3臼田
第二戦　千曲7—8小商

◆バレー◆

（男子）千曲1—2伊那北
（女子）千曲0—2飯田女

◆柔道◆

千曲0—5野沢北

◆庭球◆

（男子）
平林・竹内組　3回戦
神津・三井組　2回戦
荻原・塩沢組　3回戦
（女子）
一回戦　千曲1—4野沢南
二回戦　千曲4—3蓼科
三回戦　千曲0—4野沢南
不戦勝二回戦千曲3—4小商

◆バスケット◆

東信大会
（女子）
千曲65—48佐久
千曲48—34野沢南
千曲55—52丸子（準決勝）
千曲32—59染谷丘（決勝）
県大会（男子棄権）
（女子）
千曲50—39蓼科（一回）
千曲31—36飯田女（二回）

◆水泳◆　（須坂）

二○○M背泳　3分13秒4　池田
県・県高校新
一○○M背泳　池田　1位
一○○M自由　関　2位
二○○M個メド　小林　3位
二○○M背泳　砥石　3位
一○○M背泳　砥石　3位

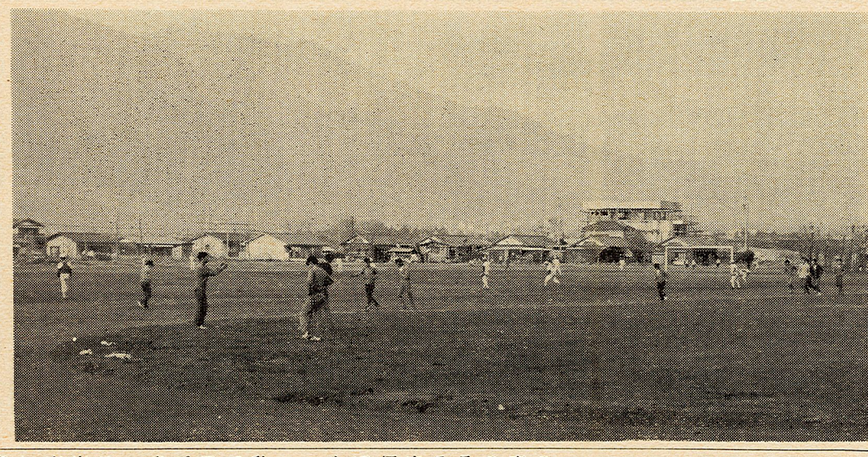
【昭和四十五年度】

◆陸上◆

春季長野県陸上選手権大会
（男子）
一六○○MR3分38秒0大会新
土橋・北住・佐藤・宮下1位
（女子）
一○○MH
涼16秒3（大会新）　1位
五種競技
涼3718（大会新）1位
四○○MR　52秒8（大会新）
田中・涼・栗原・中村　2位
八○○M　居鶴　3位
円盤投げ　栗原　3位

◆野球◆

春季北新越大会地区予選
第一戦（七回コールド）
北農　0000020　2
千曲　1402051×　12
第二戦
千曲　4410000000　9
臼田　2000023007



校庭でのクラブ活動

＝学校新聞＜桐＞より＝

（S・44・9・27日号）

運動会に思う

科対抗を廃止・ブロック対抗形式に

今回で十四回目を迎える運動会三年生は二回であるが、一・二年生には初めての体験である。

今年は、色々検討された結果、ブロック対抗という新しい形式で行なわれる事になった。ブロック対抗でも多くの弊害があるが、ある意味では我校の体質改善（？）となるのではないだろうか。

一昨年、まだ何もわからないまま、先輩の指示に従って始められた運動会。後で振り返ってみると多くの問題があった。

ある人は、体育授業の発表の場だという。いったい運動会は何のためにやるのだろう。

「何のために？目的は？」と聞くと答えられる人は何人いるというのだろうか。目的がはっきりわからないまま計画され実行されていく。当然不満や問題点が出てくる。現に、今年の運動会計画のずさんさは目にあまるものがある。

実行委員会がモタモタしていた事もあるがそれ以上に主催側である学校が計画実行のための話し合いをやっと九月になって初めた点にあると思う。これはあまりにもひどいことである。協力者的立場に置かれている生徒会の方が審議を進め、主催者の学校ではほぼんとしていたのでは話しにならない。運動会は生徒会が主催し、資金面で学校に協力してもらったらと言いたくなるのも解る気がする。

さて生徒会側にも色々問題点がある。その一番のものは実行委員会のモタツキである。実行委員はすでに夏休み前に決められ、夏休み中に運動会の大筋は決定されている筈であった。ところが評議委員会で決定されたブロック対抗がどうのこうのと進められないままきてしまった。こていねいに差し戻し審議を評議委員会にさせ結局ブロック対抗となったのである。

実行委員会は評議委員会の決定に基き、それを実行するために苦労し実行するのが役目なのだ。実行委員会が活発に動き出したのは九月に入ってからである。それまでは黙りむっつり審議。

さて色々問題はあるけれど、やる以上は立派なものにしていこう。

三年生の記憶の中にはまだ、二年前の行進の時のあの力強い足音が残っていることだろう。そして一、二年生はスライドで見た運動会をもう一度思い浮べてみよう。

さあ、あの広いグランドいっぱいに、こんなにまし熱気をくり広げよう。二年前より進歩した運動会を生徒会全員の手によって造っていこう！

定時制のみなさんより

本校最大の行事である校内運動会。今年は各科対抗でなく、ブロック対抗で行なわれた。残念ながら我々定時制は、時間の関係上、うまくいかないので例年のとおりに行なった。全日制の皆さんも、練習、アーチ作成にと大分苦労して、時間もかけた事と思います。我われも、アーチ作成等の時間が無いので、貴重な授業時間をさいて二週間前から準備にとりかかりました。こういう時には何故か普段以上に皆まとまって、日常見れない良い面が表われ、かくれた才能を発揮し皆を驚かす者、遅くまで残ってアーチ作成に専念してくれる者、それぞれ皆一つの目標に向って一生懸命頑張った。普段あまり接しない者同士がこういう機会に多いに接し、新しい友を得る事も良い事だと思う。他ブロックに負けまいと、頭をひねる事も又楽しい。若いエネルギーが、闘志が全定の境無く一つのグランドで燃える。

…あの時の感情を普段にも生かして一つ屋根の下で学ぶ我われ、互いに励まし、協力しあって益ます発展していきたい。各係の皆さんどうも御苦労様でした。

皆で考えよう

応援について

冬の冷めたい疾風の中で、練習に励げむ、応援団リーダー。ただただ御苦労様ですの一言につきる。

今、一年生（特に男子）とリーダーの間で話しが、もめているようである。一年生のみなさんは、応援というものを、きのように考えているのだろう。

規則は、厳しいに、ちがいない、辛い練習が続くにちがいない。しかし、そこには、きっと何かが、あるのではないだろうか。一年、二年、三年が、一諸になり練習に励むことにより、新しい人間関係を作りだせる。また、厳しい練習だからこそ、そこには互いの思いやりが生まれる。つまり、人間にとって、本当に大切な「愛」が生まれるのではないだろうか。

人間、楽することばかりを考え生活していってよいものだろうか？この若い時代を、いろいろな経験により染めぬいてみる必要があるのではないだろうか。リーダーに決まっていながら、練習に出てこない人よ！やってみもしないで応援はいやなものとは？やってみて、ぶつかってみて、始めて、応援に対して意見をいえるのであるとのままの状態で、やがて二年から一年生のみなさんに、バトンタッチされる時が来るだろう。その時、いちばん、困るのは、一年生のみなさんなのである。やっていく自信が、あるのかと、問いたい。応援は、あまくない、あまくないものだからこそぶつかっていく価値があるのだと言えよう。二・三年生、それと、今までの多くの先輩に、できて。一年生のみなさんにできぬはずがないのではないだろうか。いつかきっと、やってみて良かったという日が来ると思う。

この問題は、私達、全校で、考えてみる必要があるのではないだろうか。

韓国親善登山隊の一員として

今年の四月下旬より隣国、韓国の山へ行って来ます。私がここに文章を書くのは今後、先輩や幾多の友人が山岳活動をしたり、又、そうした活動をやろうと思っている人と一諸に登りたいからであります。韓国（雪岳山山系）の山は標高差二千メートルにも満たぬ山であるがその渓谷美は、素晴しいものだ、と皆様の中にも写真で知っている人もあるだろう。

韓国の内部事情もあるだろうし私にとって青春一路として勉強してきた。学生の頃から抱いていたアルプス、ヒマラヤに少しでも近づけようと登ってきたが、その一歩として行ないたかった。

私達が上田（上田クライマースクラブ、ジャヌー）という名の山岳会を創設したが、新しい考え方、創造性、自立などと口癖の様に言いながら、一人の人間を作ろうとしたが、いつかは我々よりもさらに新しい人々によってくつがえされる歴史的運命を知りながら動いた。皆が山をもっと理解する事を祈りながら仲間を求めあった。でも、いつか情熱が私達を苦しめる事を知った。けれどいいではないか、若いんだから悩んだり苦しんだりしながら青春を過ごせば……。

いつか千曲の卒業生きりでヒマラヤ迄と遠大な計画で進もうではないか！

仲間となって広く海外への夢をもって進もう。仲間になりたい者は男でも女でも構わない。

市内常磐城六—四—一八宮坂利男迄連絡して下さい。又、韓国の山は帰へってきましたら報告します。皆様はオフィスや工場で働いている間、私達ばかり楽しんで申し訳なく思っています。宮坂利男（四十二年電気科卒）

『同窓会規約』改正される

上田千曲高等学校同窓会規約

（設置）
第一条　本会は長野県上田千曲高等学校同窓会と称し、事務所を同校内におく。

（会員の範囲）
第二条　本会は上田女子実業補習学校、長野県上田実科高等女学校、長野県上田市立高等女学校、長野県上田市立商工学校、前二校の併設中学校、長野県上田工業学校、長野県上田商工学校、長野県上田市立高等学校ならびに長野県上田千曲高等学校に在学した者をもって正会員とする
二本会は母校現職員を特別会員とし、旧職員を客員とする。
第三条　会員は次の事由によってその資格を喪失する。
一　退会
二　死亡、矢踪宣告
三　除名
第四条　会員が次の各号に該当するときは代議員会の議決を経て会長がこれを除名することができる。
一　本会の会員としての義務に違反したとき。
二　本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったとき。

（目的）
第五条　本会は会員相互の親睦向上をはかるとともに、母校の発展に寄与することを目的とする

（事業の内容）
第六条　本会の目的を達成するため、次の事業を行なう。
一　母校充実に対する協力、援助
二　講習会、研究会、座談会等の開催
三　社会上必要と認めた事項への協力
四　その他目的達成に必要な事項

（役員）
第七条　本会に次の役員をおく。
一　名誉会長
二　会長
三　副会長　男女各一名
四　理事　若干名
五　幹事　若干名
六　監事　四名
第八条　本会の役員の任務は次の通り定める。
一　会長は本会を代表し、一切の会務を総理する。
二　副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその代理をする。
三　理事は会務の運営にあたる
四　幹事は庶務、会計を行なう
五　監事は会計監査の任にあたる。

（役員の選出）
第九条　本会の役員の選出は、次のように定める。
一　名誉会長に母校の校長を推戴する。
二　会長は代議員会において会員中より選出する。
三　副会長、理事および監事は代議員会において、会員中より選出する。
四　幹事は会長がこれを委嘱する。

（役員の任期）
第十条　役員の任期は二年とする再選は妨げない。
二　補欠による役員の任期は前任者の残任期間とする。

（支部の設置）
第十一条　本会に支部をおく。
二　支部には支部長および副支部長をおき、支部の区域内の会員中から互選する。
三　支部の区域は別に定めるものとする。

（代議員）
第十二条　代議員は各支部二名とし、支部長、副支部長がこれを兼任する。

（機関）
第十三条　本会に次の機関をおく
一　総会
二　代議員会

（総会）
第十四条　総会は最高議決機関で毎年一回会長がこれを召集する
二　臨時総会は代議員会の要求にもとづき会長が召集する。

（代議員会）
第十五条　代議員会は総会に次ぐ議決機関で、必要に応じて会長がこれを召集する。
二　代議員会は次の事項を議決する。
1　予算、決算に関すること
2　規約の変更廃止に関すること。
3　その他重要事故

（会計）
第十六条　本会の会計年度は毎年四月一月から翌年三月三十一日までとする。
二　本会の経費は会費および寄付金その他をもってあて、会費は入会と同時に終身会費を納めるものとする。
三　既納の会費はいかなる理由があってもこれを返戻しない

（補則）
第十七条　本規約施行上に必要な細則は、別に定める。

附　則
本規約は昭和四十五年四月一日から施行する。

昭和44年度決算

長野県上田千曲高等学校同窓会歳入歳出決算書

金　487,609円　（歳入決算額）
金　374,146円　（歳出決算額）
金　113,463円　（歳入歳出差引　翌年度繰越金）

昭和45年3月31日

歳　入

項　目	決算額	予算額	増　減
1.前年度繰越金	96,880	96,880	0
2終身会費	385,000	383,000	2,000
3,利　息	5,729	2,000	3,729
合　計	487,609	481,880	5,729

注　2.終身会費は新入会員、入学時383名、転校2名計385名分

歳　出

項　目	決算額	予算額	増　減
1.総会費	0	10,000	10,000
2.会議費	35,250	40,000	4,750
3.旅　費	4,800	50,000	45.200
4.事務費	5,864	10,000	4,136
5.支部補助費	6,000	50,000	44,000
6.記念品費	47,000	48,000	1,000
7.予備費	6,438	10,880	4,442
8.名簿作成費	268,794	263,000	△　5,794
合　計	374,146	481,880	107,734

（△印は減を示します。）

昭和45年度予算

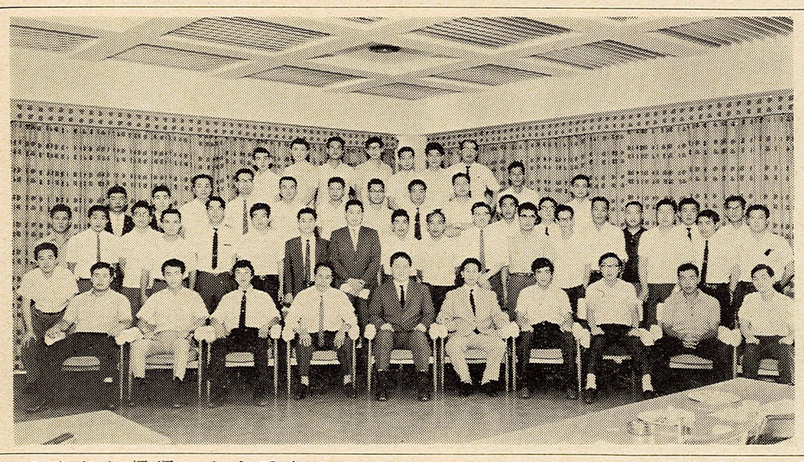
歳　入

項　目	本年度予算	前年度予算
44年度繰越金	113,463	96,880
会　費	394,000	383,000
利　息	2,000	2,000
合　計	509,463	481,880

注　会費394,000は新入会員計394名分

歳　出

項　目	本年度予算	前年度予算	増　減
1.総会費	10,000	10,000	0
2.会議費	50,000	40,000	10,000
3.旅　費	40,000	50,000	△　10,000
4.事務費	10,000	10,000	0
5.支部補助費	40,000	50,000	△　10,000
6.記念品費	34,000	48.000	△　14,000
7.新聞費	235,000	0	235,000
8.予備費	90,463	10,880	79,583
9,名簿作成費	0	263,000	△263,000
合　計	509,463	481,880	27,583



支部をつくろう!!

＜東京にこんな支部があります＞

同窓会東京支部建築部会第四回総会が、四十四年七月二十日（日）に東京赤坂の都道府県会館で開催された。例年お天気にめぐまれないこの会であったが、本年は非常に良いお天気で、校長先生、久保先生にも遠くからわざわざおいで戴いた甲斐があった。しかし暑い日でもあった。役員集合正午、開会午後一時三十分の予定であったが約十五分遅れの午後一時四十五分開会となった。型通りの会長挨拶、来賓として校長先生のご挨拶のあと久保先生から母校建築科の現況等お話があった。この後冷たいビールで暑さを浸ぎながら議事に入る。

前年総会が開催されなかった事会計報告、監査報告等があり、つづいて各クラス別の評議員の改選が行われ、新しい評議員の顔ぶれがマイクで紹介された。その後会長、副会長、会計監査が新評議員の互選によって次の通り誕生した……とは言うものほとんど前役員がそのまま再選される結果になった。

一、会長　神林徳治　二十年卒
二、副会長竹重辰躬　二十二年卒
　内藤利幸　二十六年卒
三、会計　小宮山寛　二十年卒
　丸山昇一　三十四年卒
四、監査　堀内　孝　二十一年卒
　小山隆雄　二十四年卒

新会長の挨拶があった後、いよいよ呼び物の映画が上映された。鹿島建設株式会社技術部提供の、〃超高層ビルの技術〃は目前に完成ざれたこのビルの見える会場では特に興味深く一般に公開された劇映画〃超高層ビルのあけぼの〃のように劇的な展開はないが、設計当初からの敷地利用をどうするか、形態は？地耐力は？等々から始まり、これらがモヂュールでかなり詳しく説明される。又施工に入っては、コンクリートの三階分同時打の計画や、実施状況、鉄骨の防火被覆の様様、サッシ、外壁他の内側施工等技術的にも本会会員の為には非常に意義深いものであったと思う。又この映画の色の美しさも抜群であった。この映画の無償借入れ加えて映写機一式の無料借用については副会長の竹重氏に大変お骨折をいただいた。

このあと記念写真の撮影を終え午後四時三十分新年度の組織の確立をはじめ会員の親睦、研修など幾多の成果をあげて有意義な本、総会を終えた。　内藤利幸　記

付　記

上田千曲高校同窓会
東京支部建築部会事務所
東京都文京区小石川五―二―一三新建設内
TEL八一一―八九五六

今まで本校同窓会には会報なり会誌などというものはありませんでしたが、その代りに学校新聞を主として各事業所の同窓生にわずかながら配布しておりました。

このたび、同窓会名簿が発刊の運びとなり只今この新聞と同時に振替伝票（加入者負担）を御同封し、多数の申込を御待ちしているわけですが、とにかく同窓生全員を目標に新聞を御手もとに届けることが出来ますことをうれしく思います。